



APAY eNews

翻訳: 永岡美咲(日本YMCA同盟)

災害予防・災害対策ワークショップ(スリランカ)報告

Eloisa Dukha Borreo



2013年7月21日~26日、アジア・太平洋YMCA同盟(APAY)は、災害の予防・対策・リスク減少に関するワークショップをスリランカのカラルYMCAのフォーク高校にて開催しました。その目的とは、引き続き APAY の重点事項である、災害に対応するための先見的な考え方をさらに広め、YMCA全体の戦略計画の考え方をまとめるよりよい方法を探ることです。このワークショップは、YMCAが若者を含むコミュニティーの人々を巻き込みながら先を見越した対応を行い、コミュニティーが身体的危険、財政的損失や他の社会的な後退(set-back)などといった自然災害のもたらすリスクから人々を守る目的で企画されました。このワークショップには、バングラデシュ、インド、フィリピン、スリランカの4か国のYMCAから24人が参加しました。2012年の同様のワークショップは、さまざまな経済活動に悪影響を及ぼした、例えば日本での地震・津波・原発事故やタイでの洪水といった、多くの人命を奪い、経済的損失を出した大規模な災害の翌年、Yケア・インターナショナルの支援を受けて行われました。今年のワークショップもYケア・インターナショナルの Lizz Harrison 氏が、スリランカYMCAの Felician Francis 氏とともに、応急対応期における心理社会的支援について報告を行い、他の参加者はそれぞれの経験について話しました。

私たちは、スタッフやボランティアの力不足によって、被

災地での災害への対応について計画し統括することが難しいことなど、さまざまな制約に気づきつつも、APAYはすぐに入手可能な資源を見出し、コーディネートするのに困難があります。それはただ資源が限られているだけでなく、被災地のYMCAがYMCA緊急時協働協定(YMCA International Emergency Coordination Protocol)や災害対応基準を参照することについてあまり知らないか、知っていてもあまり利用するのを望まないからではないかと感じられます。YMCAスタッフやボランティアをよく訓練しておくことで、実際に災害が起こった時に適切な対応ができるよう災害予防の面でYMCAの力を備えておくことが、必要なことは明らかなのです。

したがって、今年のワークショップでは以下のことを目標としました。

1. スタッフやボランティアが緊急対応の行動にかかわる能力を備え、向上させること。国際的な責任の基準をよく理解するところから始めること。
2. スタッフやボランティアが、YMCA緊急時協働協定を活用することについて理解や自信を確かなものにする。リフレッシュ・セッションで、災害対応テンプレートを完成させること。
3. 他のYMCAでも、それぞれのニーズや状況に合わせて同様の活動を行い、ユースの参画やリーダーシップを取り込むことを促すため、いくつかのYMCAで行われた災害リスク削減(DRR: Disaster Risk Reduction)パイロット・プロジェクトについて報告を行うこと。
4. コミュニティー・ベースの災害リスク削減パイロット・プロジェクトを、ユースに焦点を絞ったコミュニティー活動と合わせて開発することを検討し、プロジェクト開発のプロセスへの理解を高めること。

学びのプロセスのハイライトは、緊急時のニーズの把握(Needs Assessments)と基準、応急対応期の心理社会的支

援、YMCA緊急時協働協定や災害リスク削減に関して若者に適した活動の例を示すこと、災害への脆弱性(Hazard Vulnerability)と能力評価(Capacity Assessment)、コミュニティーが持つ強みについてレーダーチャート(Pentagon Mapping)を用いた経験的学習、および災害リスク削減プロジェクト開発と予算作成でした。

ワークショップ前と比較して、どの程度学びを得たかを知るため、ワークショップ後に「テスト」が行われました。最後には評価表が配付され、ワークショップが終了すると同時に、参加者からのフィードバックも得ることができました。災害が起こった際にリスクを軽減する能力を向上させるために、スタッフやボランティアをこのワークショップの参加者として派遣くださったYMCAに感謝いたします。Yケア・インターナショナルにも、財政的なサポートやワークショップ実施、学びのプロセスへの引き続きの支援と協力をいただき、感謝申し上げます。最後に、ワークショップの共催と受入をくださったスリランカYMCA同盟のおかげで、有意義で実り多い研修となったことを感謝申し上げます。

グローバル・オルタナティブ・ツーリズム研修
Duncan Chowdhury



各国YMCAにオルタナティブ・ツーリズムについて浸透させることは、APAY が最近の取り組んでいることのひとつです。グローバル・オルタナティブ・ツーリズム・ネットワーク(GATN)は昨年の発足以来、目標を果たしつつ注目すべき進化を続けています。多くのオルタナティブ・ツーリズム施設が設立され、オルタナティブ・ツーリズム施設関係者のスキル向上を目的とした研修やワークショップを受け入れてきました。各施設での研修は、YMCA内でコミュニティー・ツーリズムを広めるのにより効果的であると考えられるため、最近

ではスリランカとバングラデシュでそれぞれオルタナティブ・ツーリズム研修が開催されました。

各国レベルでの研修として最初に行われたのは、2013年8月2日～3日、スリランカ・カラルYMCAフォーク高校で行われたものです。パンダテルupp、バライチデナイ、コマリ、マンナール、ウナワトゥナの5つのYMCAおよびYWCAから、12人が参加しました。APAY GATN タスクフォースのアドバイザーであるRanjan Solomon氏とAPAYプログラム担当主任主事のDuncan Chowdhuryが研修を行いました。

同様のワークショップが8月11日～12日、バングラデシュ・ダッカでも行われました。この研修には、ビリシリ、ボグラ、カリグラムの3つのYMCAから12人が参加しました。

ワークショップでは、マス・ツーリズム(大衆による観光)の現状と、マス・ツーリズムが訪問先のコミュニティーや環境、生態系にどのように悪影響を及ぼし、地元の文化や遺産を傷つけてきたか、考えを共有しました。参加者は、それぞれの地元でオルタナティブ・ツーリズム施設を立ち上げることを決意しました。今後、観光プログラムを通して地元のコミュニティーに利益がもたらされ、環境や生態系を保護するためのあらゆる努力がなされ、文化や遺産が維持されることになるでしょう。

新たに9つのオルタナティブ・ツーリズム施設がスリランカとバングラデシュで開発されることが期待されています。

ワークショップ後には、オルタナティブ・ツーリズム施設の建設予定地への訪問も行われました。

総主事デスクより・・・
チェンジ・エージェントに期待する

アジア・太平洋YMCA同盟総主事 山田公平
YMCAは、青少年のための団体というイメージは一般にあるように思いますが、実際に青少年のもつ社会的意識や課題にYMCAがきちんと対応できているか、世界規模でもう一度考えようとする動きがあります。YMCAに何を期待しているのか、若い人たちの期待や実際の気持ちを知るために、2011年に世界YMCA同盟が中心になって、世界中のYMCAにアンケートを配り、世界のYMCAの実態調査を行いました。それによると、世界



には119のYMCAがあり、なんと5800万人もの人たちが、YMCAの活動にかかわっているということが分かりました。

この調査の結果、若者に大切な働きでYMCAがすべきものとして4つの分野が挙げられました。

1つ目は、若者の健康の問題に取り組むこと、その中にはエイズや肥満、糖尿、あるいは麻薬依存など、世界中の若者を含め、大きな問題になりつつあるからです。

2つ目は、雇用です。日本もそうですが、失業や長期保証のない雇用形態が若者の問題となりつつあります。世界各地で雇用は若者にとり深刻な問題となりつつあります。日本でも、格差社会が広がり、仕事があっても、貧しい経済活動から抜け出せない若者が増えつつあります。

3つ目は、環境です。最近では、世界中で地球環境に変化が起きていることに気づき、その原因がどうやら人類の活動による地球汚染によるものという見方がされています。日本は先進経済国の中では、意識的に、組織的に環境問題に取り組んでいます。多くの国でまだまだ意識が欠け、経済活動優先がさらに進みつつあります。若者もこれにはかなり関心を持っていると感じています。

最後の4つ目ですが、まさに若者自身が地域や地球大の問題に関して気づき、自分の責任として感じ、何かをしなければならぬと感じ始めているということです。地球市民という意識が、実際の行動に向かって行こうとしています。

以上の4つの傾向が世界中のYMCAの調査で分かりました。ではどこからはじめていくのですか？ これまでのYMCAでは、これらの問題に何をきて、そこに若者たちをどう位置づけてきましたか？ これからのYMCAでは、何が必要なのでしょう？ これらの質問にどう答えるか、YMCAのスタッフやボランティアに向けられ、そして若者自身にも向けられています。チェンジ・エージェントはそんな疑問、課題に何ができるかを一緒に考えて、実際に何かをやってみようという発想から、世界規模で始まりました。

今年8月はじめ、チェコのプラハに若者7,000人が集まり、ユースフェスティバルが行われ、そこに世界70カ国から200人のチェンジ・エージェントが集まりました。日本からは3名が参加しました。世界規模でチェンジ・エージェントが集まったのは初めてです。アジア・太平洋地域から25名が参加し、これからの具体的な道のり(すべきこと)を一緒に考えました。簡単にまとめてみます。

1. 各国に戻り、若者として何ができるか、何をすべきかをYMCAのリーダー達(総主事や役員)と話し合う。さらに、ユースグループと話し合い、以下のような行動を一

緒に行う。

2. 秋(10月18日～31日)にアジア太平洋地域全体のYMCAで、環境に関する行動を計画し、指定の期間中にいっせいに若者を中心に行動を起こす。(ワイズにも協力と参加を呼びかけています)。この行動計画は、APAYユース委員会から出されたものです。
3. 世界でいっせいに若者の意識調査「百万人の声」調査プロジェクト(One Million Voices Survey)を行い、地球規模の若者の声をYMCAだけでなく、国連や国の若者対策への意見として伝えていく。これにより、世界規模の課題と、各国での若者の意識やその特徴が分かり、具体的な行動に結び付けやすくなる。
4. 2014年6月6日(YMCA創設から170周年記念日)に世界中で、若者を中心に行動を起こす。2012年のYMCAワールド・チャレンジは、バスケットボールのシュートをいっせいにやったが、アジア・太平洋地域では2014年は環境に関する行動をと呼びかける予定。
5. 2014年6月末からアメリカで行われる世界YMCA総会(World Council)にチェンジ・エージェントが全員参加し、これらの行動をさらにどう次の4年間YMCAで行うことができるかを提案していく。
6. さらに、アジア・太平洋地域では、この同じチェンジ・エージェントが2015年のAPAY総会(9月韓国で開催)で若者からの提案を受けて、一緒に考えることを提案する。

チェンジ・エージェントは、各国から選ばれた数名の若者です。今回世界のチェンジ・エージェントに会い、互いに刺激を受けたことと思います。実際に各国数名の選ばれたチェンジ・エージェントだけでは、難しいのは事実です。日本では、国内版チェンジ・エージェントの組織化について、同盟協議会で決まったとの報告をいただいています。彼らの行動と通して、彼らの声とおして、具体的には次の時代に何が大切かを知り、何か社会で若者自身が行動を起こせるような、動きにつながればと願っています。

そのために国内でもトレーニングをし、世界の同じようなチェンジ・エージェントと会って、分かち合い、その国、そのYMCAでできることがよりはっきり見えてくる、互いに協力する、そんな環境を日本がまず示して、YMCAが世界規模で生み出そうとしていることのきっかけを生み出していただきたいと思っています。

チェンジ・エージェント研修(チェコ・プラハ)報告

Roger Peiris



2013年8月4日～10日、約200人のチェンジ・エージェントが、各地のYMCAからチェコ共和国プラハで行われたYMCAヨーロッパ・フェスティバルに集い、世界規模の挑戦ともいえる初めての研修に参加しました。アジア・太平洋地域のYMCAからは25人のチェンジ・エージェントが参加し、今後の意義あるプロジェクトについての方向性を決めました。

フェスティバルでは、APAYのチェンジ・エージェントによってTシャツ交換やワークショップが行われました。APAYのブース内で900人ものユースがTシャツ交換をしたのは、とても素晴らしいことです。

アジア・太平洋地域からのチェンジ・エージェントは、それぞれの国やYMCAのプログラム、経験を他の参加者と話し合いました。インド、香港、マカオ、日本、フィリピン、ミャンマー、マレーシア、シンガポール、スリランカ、オーストラリア、ニュージーランドからのチェンジ・エージェントが研修に参加しました。

世界YMCA大会は2014年6月末～7月初旬にかけて行われ、1,500人のYMCA指導者が世界中から参加することが期待されています。チェンジ・エージェントは、この世界YMCA大会に運営チームとしてかわります。彼らは大会中、自らの経験やストーリー、チャレンジや成功体験についてYMCA指導者と話し合う機会が与えられます。劇や音楽などといったクリエイティブなプレゼンテーションも、チェンジ・エージェントによって行われる予定です。

日本からは黒澤伸一郎氏(横浜YMCA)、廣瀬頼子氏(神戸YMCA)、永岡美咲(日本YMCA同盟)が参加しました。



「百万人の声」調査プロジェクト(One Million Voices)

「百万人の声」の目的は、若者が自分たちの置かれている現状をどのように認識しているか、また個人やそれぞれが住んでいる国の若者全体の考えはどのようなものであるか情報を調査し、理解することです。この調査プロジェクトは、ユースに関連する社会正義(social justice)の問題、バリア、機会についてのユースがどのように考えているか理解するために活用されます。調査結果から得られる学びは、現在と将来の集団や個人、家族や社会の問題と重要な関係を持つでしょう。

調査結果をもとに、各地からユースの声を世界に届け、15歳から24歳の若者の生活の質(Quality of Life)の向上に取り組む、包括的な調査プロジェクトとなります。

今後のスケジュールは以下のとおりです。

60か国でのパイロット調査	2013年9月～10月
調査スタッフ対象の研修／準備	2013年10月～12月
各YMCAとの連絡調整	2013年9月～12月
本調査実施開始	2014年1月
データ回収	2014年1月～8月
データ処理・データ分析	2014年9月～2015年5月
結果公表・報告	2015年6月



東ティモールYMCA

女性のエンパワーメント・プログラム

Richard Kaing

東ティモールYMCAでは、テラサンタYMCAの近くに住む多くの主婦が自分たちのしたいことができず、家にいて子どもの世話などをするだけで、夫に完全に依存しているということがわかりました。彼女たちは、すべてのことを夫に委ね、必要な家事労働をすべて行ってきました。しかしながら、夫が突然亡くなる場合など、母親として子どもをしっかり養

う準備ができない場合も多いのです。そのようなことから、東ティモールYMCAでは、家族の収入を増やすことと、古着をリサイクルすることを目的として、女性たちが裁縫のプログラムを通して技術を身に着けるための支援をしたいと考えてきました。



東ティモールYMCAで初めての女性エンパワーメント・プログラムである裁縫プロジェクトが、2013年7月8日に、10人を集め始めました。彼女たちは私に、このプログラムに参加するにあたっての夢や希望について語ってくれました。彼女たちは、テラサンタYMCAで、トレーニングやスキル向上のために1日2時間を費やしています。参加者の1人は、トレーニングを修了したら、自分が学んだことを利用してコミュニティに暮らす他の主婦を支援するつもりだと言いました。別の1人は、トレーニングを受けている人たちがYMCAと裁縫クラブをつくり、収入の足しとするために小規模ビジネス (small business) を始めたいと言いました。また、他に、この研修プログラムに参加してから、家族の世話をすることにさらに自信がついたと話しました。また、研修の修了後、小規模ビジネスを始めるためには、資金が必要だという人もいます。YMCAがによる支援の可能性を模索しなければなりません。彼女たちはとても幸せで、お互いに助け合っています。願わくは、この試みが女性のエンパワーメントに関するプロセスのほんの始めの一歩となって、研修参加者が他の戦略的ニーズ (strategic needs) に取り組んでいけるために、より高いレベルのエンパワーメントについて知ることができるよう望みます。このプロジェクトはまだ福祉的アプローチをとっており、リーダーシップやプロジェクトのマネジメントといった、他のスキルを向上させるまでの入口にすぎません。時を経て、参加者がすべてのプログラム内容を学習し、経験したとき、徐々に変化を目の当たりにすることができるでしょう。人々がコミュニティからYMCAに来て、ともに学び、仲間となり、家族やコミュニティを守るためにたくましくなっていくのを見るのは、素晴らしいことでした。

この6か月の女性エンパワーメント・プログラムの目的は、

女性向けのオルタナティブな活動をつくること、運営可能な自営プログラムをつくること、家族の収入を増やすこと、尊厳を持ち、依存から自由になること、環境保護のために古着をリサイクルすることです。

ユースからの声 アジア・太平洋地域のチェンジ・エージェント紹介

今こそ、行動するとき

Caroline Tsang(香港)

YMCAヨーロッパ・フェスティバルの期間中、世界中から200人のチェンジ・エージェントがプラハに集い、研修を受けました。挨拶やおしゃべり、パフォーマンス、新しいYMCAの歌、そしてフェスティバルそのものという、たくさんの思い出を分かち合いました。「百万人の声」調査プロジェクト、世界YMCA大会、YMCAワールド・チャレンジ、環境リソース・グループ、グローバル・デジタル・アクセラレーターに関して、私たちの準備は万端です。私たちには、世界中のチェンジ・エージェントとともに、質問をしたり、疑問点を晴らしたり、意見をシェアしたりする場が与えられました。

今こそ、行動するときです。皆さんも一緒に行動しませんか？ あなたがこの世界に望む変化に、自分自身がなりましょう。



YMCA Tシャツ交換 Czech(Check) It Out!

Barry Teh(マレーシア)

プラハでの経験を語るのに十分な語彙を持ち合わせていません。そして、私のストーリーを書くには、紙幅が足りないでしょう。ですから、APAY ユース委員会/チェンジ・エージェントの Facebook ページに投稿した何百枚ものカラフルな写真を見ていただきたいと思います。ぜひチェック(Czech=英語で「チェコ」を「チェック」と発音)してください！

<https://www.facebook.com/pages/APAY-Youth-Committee-YPLD-and-Change-Agents/508521019162451>

APAY チェンジ・エージェント 25 人は、プラハでTシャツ交換ブースを企画・実施しました。アジアの言語を教えたり、Tシャツを交換したり、APAY での経験について話したりと、とても忙しいブースとなりました。なんと、たった 2 日間で 900 枚ものTシャツが交換されたのです！



写真: 後列右端が筆者の Barry Teh。

緑野菜の再分配

Fiona Lee(香港)

皆さんは、「食べ物」がどのように「ゴミ」となるのか不思議に思うかもしれません。実際、私の住む香港では、毎日 3200 トンを超える食品廃棄物が出されます。この食べ物の大部分は埋め立てに使用されるのです。一方で同時に、多くの低所得世帯は、家族のために十分な食事を手に入れることができません。最も貧しい地区のひとつにある香港YMCA 長沙湾(Cheung Sha Wan)センターは、このような環境に関するさまざまな問題に直面しています。私の属するボランティア・チームは、食料の廃棄を減らすこと、資源を再使用すること、コミュニティーをエンパワーすることの 3 つの目的のために、野菜の再分配プロジェクトを行っています。



私たちのボランティア仲間が、近くの市場の八百屋から 300kg もの余った野菜を回収してきたときには、とても驚きました。ある八百屋は、協力していることを示すために、私たちのためにわざわざ新鮮な野菜を保存していただけてました。

何回か野菜を回収すると、その地区に住んでいないにもかかわらず、ユースたちはそれぞれの八百屋の名前を覚えることができました。ユースの情熱やインパクトに感謝していただき、地元の高齢者や子どもたちもこのアクションに参加してくれるようになりました。このプロジェクトは 1 回限りのキャンペーンではなく、むしろ環境のための長期的な取り組みです。どんなに困難があっても、私たちはやり続けます。

YMCAグリーン・チャレンジ開催！

2013年10月18日～31日

ひとつの目標に向かって、さまざまな活動を行うことを想像してみてください。YMCAグリーン・チャレンジの目的は、環境のための活動を行うこと、ユースが社会に対する自分たちの責任



に気づくこと、そしてこれらの活動を通してYMCAにさらに多くのユースを引き付けることです。10月18日～31日のうち、特定の日や週を選んで、環境問題に関する取り組みを行ってください。取り組みの例としては、ワークキャンプ、道の掃除、植林、啓発活動、展覧会、絵画コンクールなどがあります。皆さんのコミュニティーで、最もふさわしい活動をクリエイティブに行ってください。

イベントに高い目標を設定して、頑張りましょう。APAY は、登録されたイベントすべてに参加証を発行します。マニュアルは以下 URL からダウンロードいただけます。

- <http://www.asiapacificymca.org/apaygreenchallenge2013/>
- ☆APAY グリーン・アンバサダーのブログ
- <http://www.apaygreenambassadors.blogspot.hk/>
- ☆APAY グリーンYMCA賞
- http://www.asiapacificymca.org/joomla/index.php?option=com_content&view=article&id=366



発行元
アジア・太平洋YMCA同盟
Asia and Pacific Alliance of YMCAs
23 Waterloo Road, 6th floor, Kowloon, Hong Kong
tel. 852-2780 8347, 2770 3168, 2783 3058; fax 852- 2385 4692
e-mail: office@asiapacificymca.org